



東京ミッドタウン・デザインハブ
〒107-6205 東京都港区赤坂 9-7-1
ミッドタウン・タワー5F

Tokyo Midtown Design Hub
5th floor, Midtown Tower,
9-7-1 Akasaka, Minato-ku,
Tokyo Japan 107-6205

TEL 03-6743-3776
Fax 03-6743-3778
http://www.DesignHub.jp
info@designhub.jp

2010年3月31日
財団法人日本産業デザイン振興会
社団法人日本グラフィックデザイナー協会
九州大学・芸術工学東京サイト

東京ミッドタウン・デザインハブ第21回企画展
「日本のデザイン2010」4月8日より開催
Design in Japan 2010

東京ミッドタウン・デザインハブ（東京都・港区）では、第21回企画展「日本のデザイン2010」[ニホンノデザイン トウエンティ・テン]を、2010年4月8日（木）から5月9日（日）まで開催いたします。

ますます高度化し、複雑化していく現代の社会の中で、デザインはどこへ向かうのでしょうか。それはそのまま、私たちの暮らしや環境が、今後どうなっていくかという問いと重なります。

地球環境や世界経済の問題を超えて、未来に向かうためには何が必要か、本展では、デザイナーや建築家、アーティストとして活躍する5人の方をキュレーターとしてお招きし、これからのデザイン、これからの日本を考える視点を探っていただきました。

本展の実現にあたり、参加キュレーターは狭義のデザインの殻を破ろうと、モノづくりの現場やまちづくりの最前線へと出かけ、濃密な対話を重ねてきました。今までとはちょっと違うデザインの展覧会をお楽しみください。

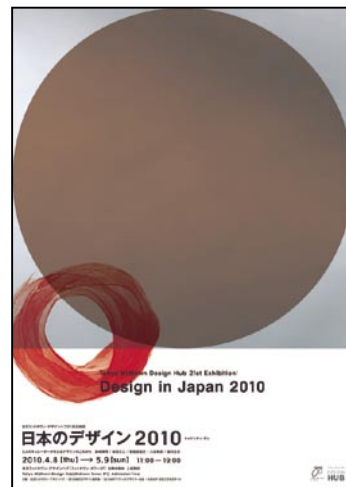
- 名称：東京ミッドタウン・デザインハブ第21回企画展「日本のデザイン2010」
- 会期：2010年4月8日（木）～5月9日（日）11:00-19:00（無休・入場無料）
※ オープニングパーティー：4月9日（金）19:00～21:00
- 会場：東京ミッドタウン・デザインハブ URL：http://www.designhub.jp
（東京都港区赤坂9-7-1ミッドタウン・タワー5階）
- 主催：東京ミッドタウン・デザインハブ（財団法人日本産業デザイン振興会／社団法人日本グラフィックデザイナー協会／九州大学・芸術工学東京サイト）
- アートディレクション：松下 計 ■会場デザイン：川嶋 貴介
- テキスト編集：杉山 衛
- 参加キュレーターとテーマ：

- 黒崎 輝男（デザインプロデューサー）：「食と学びとデザイン」
- 柴田 文江（インダストリアルデザイナー）：「デザインの湿度」
- 曾我部 昌史（建築家）：「地域とデザイン」
- 八谷 和彦（メディアアーティスト）：「日本の飛行機とデザイン」
- 廣村 正彰（アートディレクター）：「恋愛（ロマンス）とデザイン」

- 「日本のデザイン2010」特設ウェブサイト：http://www.designhub.jp/japan
- デザインハブ twitter アカウント：@DesignHub_Tokyo

※ 東京ミッドタウン・デザインハブは、Twitterを使っています。「@DesignHub_Tokyo」からデザインハブの企画展情報の他、東京ミッドタウンのイベント情報などさまざまな情報をツイートします。また、あなたのアカウントからデザインハブの企画展、イベントへの感想にハッシュタグ(#designhub)をつけてコメント頂くと、ウェブサイトhttp://www.designhub.jp/japanへも表示されます。投稿をお待ちしております。

※ トークショーなどの関連イベントを開催する予定です。詳細はウェブサイトやTwitterでご案内します。



「日本のデザイン2010」
メインビジュアル
（デザイン：松下計）

一般の方からのお問い合わせ先：財団法人日本産業デザイン振興会
電話 03-6743-3777 FAX 03-6743-3778 担当：酒井、廣嶋、鈴木

報道関係のお問い合わせ先：株式会社オズマピーアール
電話 03-3403-9505 FAX 03-3403-0436 担当：鈴木、西村、木村



「日本のデザイン 2010 (トゥエンティ・テン)」 参加キュレーターおよびテーマ詳細



●「食と学びのデザイン」黒崎輝男 (デザインプロデューサー)

「食」と「学び」を通して、自己をかたちづくり、社会をデザインする「原点 = 素(もと)」へと遊行します。元素、要素、素材、素養など、日本の文化の素となる豊かなデザイン資源と出会い、そこから新たな日本のデザインの再構築へと向きたい。「これってデザイン?」と思われるほどあたりまえな原点から出発し、世界が直面する価値の問い直しや地球環境問題へも寄与しうる、日本のデザインが描く新たな世界観を探ります。



●「デザインの湿度」柴田文江 (インダストリアルデザイナー)

使い手に我慢や歩み寄りを強いる「モノ視点」のデザインから、より人間に寄り添った、ナチュラルな使いごちを実現する「人間視点」のデザインへ。そのための要因を、人間らしさを示す特徴としての「湿度」と仮定し、「しっとり」「なめらか」「しなやか」の3つのキーワードから、企業のデザインの最先端に取材します。ハードとしてのモノのカタチを持ちながら、きわめて人間的なふるまいをする、新しい機能のあり方の提案です。



●「地域とデザイン」曾我部昌史 (建築家)

暮らしを育む器としての地域は、だからこそ、楽しい場所であってほしい。今、各地の自治体では、少子高齢化や経済の停滞など、一見マイナスな要因をポジティブに捉えつつ、地域を活性化させる試みが始まっています。そこには、慣習や常識に囚われずアイデアを見きわめ、実現に奔走する、ちょっと変わった首長が数多く存在します。北海道から九州まで4人の首長を訪ねました。彼らとの対話を通してこれからの地域づくりを考えます。



●「恋愛とデザイン」廣村正彰 (アートディレクター)

誰にも経験があり、避けて通ることのできない「恋愛」は、ときにさまざまな障害や矛盾を克服してしまうほど、力強いコミュニケーションを実現します。一方これからのグラフィックデザインには、受け取る人の心を強くゆさぶり、引きつけるコミュニケーションが求められています。ここでは「距離」「体験」「装飾」「物語」「場所」の5つの切り口から、恋愛とデザインにおけるコミュニケーションのあり方と、その可能性を探ります。



●「日本の飛行機とデザイン」八谷和彦 (メディア・アーティスト)

日本では永らく途絶えていた飛行機づくりに、今、「ホンダジェット」と「MRJ」が挑戦しています。そこには、機体をつくることはもちろん、性能テストやその認定、販売までをトータルに把握し実現する「インテグレート(統合)」の能力が欠かせません。全体のバランスや信頼性を最優先させる航空機の設計には、これからのモノづくりのヒントがあると考え、日本の飛行機を手がける2人のキーマンにお話をうかがいました。